



Alaska

MARC RIBOUD

2015.1.16 Fri.-2.15 Sun. 12:00-20:00 Free Admission / Open daily CHANEL NEXUS HALL

あらゆる驚きが写真家を待ち伏せしている。
驚きは写真家の目を開かせ、
視ることへの情熱を持った者の胸をときめかせる。
(マルク リブー)

Alaska

MARC RIBOUD

マルク リブーは、アンリ カルティエ=ブレッソン、ロバート キャパらとともに、写真家集団マグナムの一員として世界中を駆け巡り、激動の20世紀をとらえてきたフランスを代表する写真家です。1958年、3年にわたる中東・アジア諸国での取材から戻ったリブーが次に向かったのがアラスカでした。はるか以前にゴールドラッシュの熱狂は終焉し、新たな金脈となる石油が未だ地下深くに眠っていた当時のアラスカは、広大な未開の土地でした。あらゆる醜悪なものを消し去る雪、沈黙が支配する大地。リブーは子どものような驚きを持って、白いキャンバスに描かれる点描のように、アラスカの風景をレンズで切り取っていきました。この度の展覧会では、これまでほとんど発表されることのなかった知られざる名作「Alaska」のシリーズより、厳選した作品を展示いたします。マルク リブーの確かな眼差しと詩情は、写真の持つ本質的な力を再発見させてくれます。

マルク リブー Marc Riboud

1923年、フランス・リヨン生まれ。14歳の時、父親にもらったカメラで写真を撮りはじめる。第二次大戦中はレジスタンスのメンバーとして反ナチス抵抗運動に参加。その後、リヨンの国立高等工芸学校にて工学を学び、リヨンの工場でエンジニアとして働く。休暇中、リヨンの演劇祭を撮影したのを機に退職し、フリーランスの写真家となる。1953年、マグナムに参加。1957年、初の中国訪問。以降40年以上にわたり断続的に中国を撮影。1958年、来日。“Women of Japan” (テキスト: Christine Arnothy) を出版する。1975年～78年、マグナムの会長を務める。1980年、マグナムの寄稿家に転向。1966年、1970年には海外記者クラブ賞受賞。ニューヨーク、パリをはじめ世界中で個展が開催されるほか、多くの写真集が出版されている。

「Alaska」マルク リブー写真展

〔開催日程〕 2015年1月16日(金)～2月15日(日)

12:00～20:00

入場無料・無休

〔開催場所〕 シャネル・ネクサス・ホール

中央区銀座3-5-3 シャネル銀座ビルディング4階

〔お問い合わせ〕 シャネル・ネクサス・ホール事務局

03-3779-4001

※尚、本展覧会は会期終了後、国際写真フェスティバル京都グラフィ어의公式展覧会として、2015年4月、京都に巡回いたします。

詳細は下記ウェブサイトにてご案内させていただきます。

シャネル銀座 www.chanel-ginza.com

京都グラフィー <http://www.kyotographie.jp/>

JR YURAKUCHO sta.			
			sotobori st.
		printemps-ginza ●	
● wako		CHANEL GINZA	
nissan ●	● mitsukoshi-ginza	matsuya-ginza ●	chuo st.

CHANEL NEXUS HALL



All photos © Marc Riboud

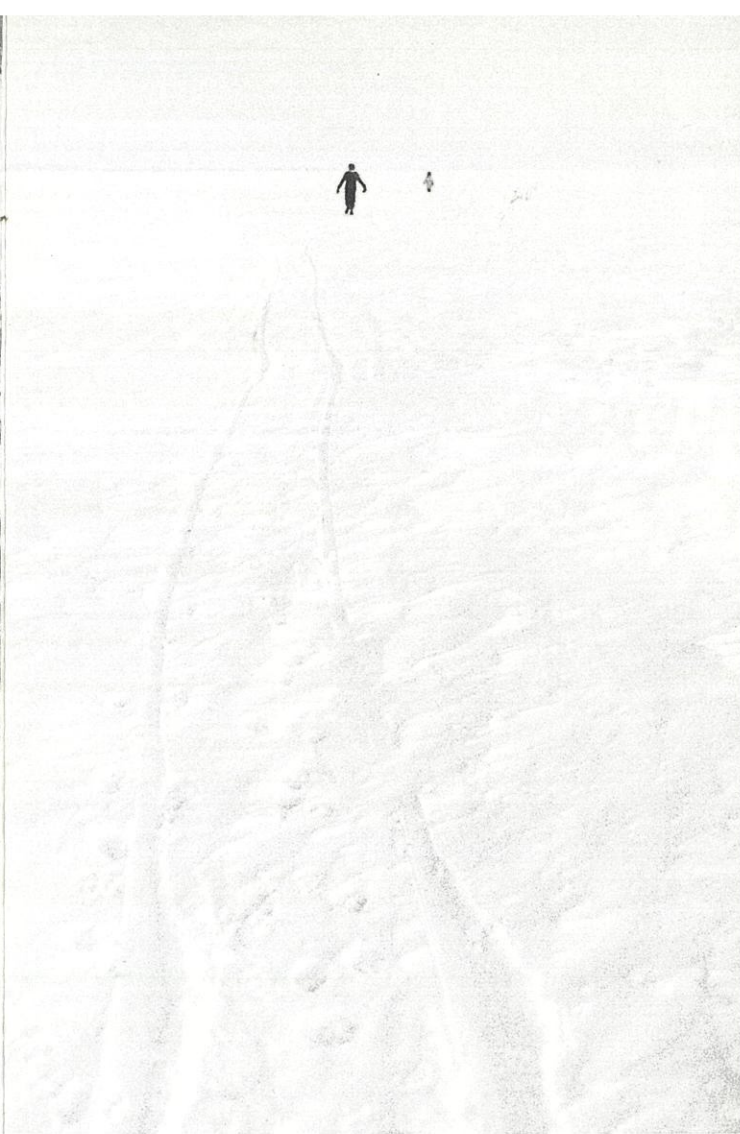


CHANEL NEXUS HALL

シャネル・ネクサス・ホールは、シャネル銀座ビル4階に位置し、芸術を愛し支援したシャネルの創始者ガブリエル シャネルの精神に基づき、年間を通して、展覧会や音楽会等の文化イベントをシャネル独自の企画で開催。2013年よりKYOTOGRAPHIEに参加し、公式プログラムとして写真展を開催。

CHANEL NEXUS HALL, located on the 4th floor of the CHANEL Ginza building, hosts a wide variety of exhibitions and musical concerts that embody the creative spirit of Gabrielle Chanel. It has also hosted a photo exhibition as a part of the official program for KYOTOGRAPHIE since 2013.

www.chanel-ginza.com



KYOTO
GRAPHIE
international
photography festival

Alaska

MARC RIBOUD



KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2015

「Alaska」マルク リブー写真展

〔主催〕 シャネル・ネクサス・ホール

〔開催日程〕 2015年4月18日(土)～5月10日(日)

10:00～18:00 入場無料

休館日 4月22日(水)

〔開催場所〕 菅田屋源兵衛 黒蔵

京都府京都市中京区室町三条下ル西側菅田屋奥



CHANEL
NEXUS
HALL

「Alaska」

Marc Riboud Photo Exhibition

presented by CHANEL NEXUS HALL

SCHEDULE: 2015.4.18 Sat. - 5.10. Sun 10:00 - 18:00

Free Admission, Closed on April 22

VENUE: Kondaya Genbei Kurogura

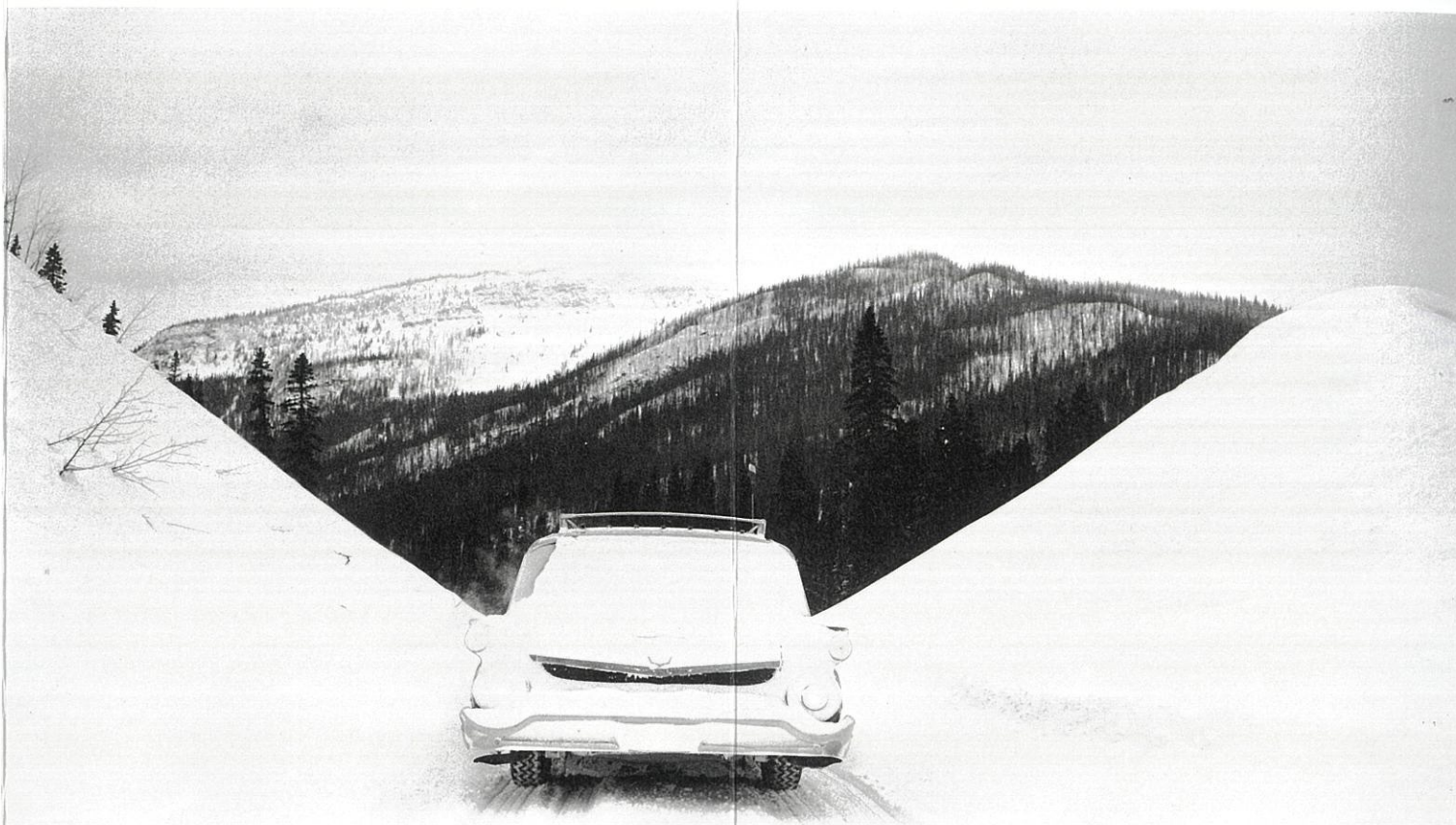
Muromachi-sanjyosagaru, Nakagyo-ku, Kyoto-city

マルクリブーは、写真家集団マグナムの一員として世界中を駆け巡り、激動の20世紀をとらえてきたフランスを代表する写真家の一人です。1958年、3年にわたるアジア・極東諸国での取材を終えたリブーが次に向かったのはアラスカでした。はるか以前にゴールドラッシュの熱狂は終焉し、新たな金脈となる石油が未だ地下深くに眠っていた当時のアラスカは、広大な未開の土地でした。あらゆる醜悪なものを消し去る雪、沈黙が支配する大地。リブーは子どものような驚きを持って、白いキャンバスに描かれる点描のようにアラスカの風景をレンズで切り取っていきました。

この度、シャネル・ネクサス・ホールは、これまでほとんど発表されることのなかったリブーの名作「Alaska」シリーズを、東京銀座に続き、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2015の公式プログラムとして創業280年を迎える京都の帯匠、菅田屋源兵衛の町屋奥に佇む「黒蔵」にてご紹介いたします。マルク リブーの確かな眼差しと詩情が、写真の持つ本質的な力を再発見させてくれるでしょう。新旧が交差する京都ならではの空間、黒壁の中に広がる雪原の世界をどうぞお楽しみください。

Marc Riboud, one of France's most celebrated photographers, traveled the globe chronicling the tumultuous 20th century as a member of the Magnum agency. In 1958, after a three-year journey travelling and photographing at his own rythm in Middle East and Asia, Riboud turned his focus to Alaska. With the feverish activity of the gold rush long gone and its rich deposits of oil - the "new gold" - still dormant deep underground, Alaska remained a vast unexplored wilderness; a terrain dominated by snow and a silence that erased all incarnations of ugliness. With child-like excitement, Riboud framed the Alaskan landscape with his lens, as if sketching on a white canvas.

Relocating its exhibition from Ginza, Tokyo, CHANEL NEXUS HALL will present Riboud's masterly yet largely unseen "Alaska" series as part of the official program of KYOTOGRAPHIE 2015 in "Kurokura" a black kura warehouse behind the renowned 280-year-old obi shop Kondaya Genbei in Kyoto. Marc Riboud's assured gaze and sensibility encourage you to rediscover the innate power of photography. We hope you will enjoy the juxtaposition of snowscapes on black walls in a setting befitting Kyoto, a city where the past interweaves the present.



マルク リブー

1923年、フランス・リヨン生まれ。14歳の時写真を撮りはじめ、リヨンの演劇祭を撮影したのを機に、フリーランスの写真家となる。1953年、マグナムに参加。1957年、初の中国訪問。以降50年以上にわたり断続的に中国を撮影。1958年、来日。“Women of Japan”を出版する。1966年、1970年には海外記者クラブ賞受賞。パリ、ニューヨークをはじめ世界中で個展が開催されるほか、多数の写真集が出版されている。



Marc Riboud

Born in Lyon, France, in 1923, Marc Riboud began taking photographs at the age of 14. After covering the theatrical festival of Lyon as a photographer, he became a freelance photographer. In 1953 he joined the Magnum agency. In 1957 he visited China and continued to take photos of China for more than 50 years. He visited Japan in 1958 and "Women of Japan" was his first book. He won the Overseas Press Club award twice, in 1966 and 1970. Numerous exhibitions have been held in Paris, New York, and all over the world, and his photographs have been published in many books.

チケット 〈各会場にて販売、当会場のみ一回入場可能 ＊中学生以下は全会場無料〉	
虎屋 京都ギャラリー 1	
コム デ ギャルソン京都店 4a	入場無料
誉田屋源兵衛 黒蔵 7	
堀川御池ギャラリー 4b	一般＝700円
嶋臺ギャラリー 5	学生(大学・高校・専門生)＝500円
両足院 建仁寺内 10	
上記以外	一般、学生(大学・高校・専門生)とも
2, 3, 6, 8, 9, 11, 12, 13, 14	＝500円

パスポート 〈各有料会場にて販売、会期中全会場各一回のみ入場可能〉	
一般＝2,500円、学生(大学・高校・専門生)＝1,500円	

前売パスポート 〈会期中全会場を各一回のみ入場可能〉	
一般＝2,000円	特典:有料会場にて引き換え。ポストカード1枚進呈。
びあ、イープラス(e+)にて発売中。	
(前売価格は4月17日まで、4月18日以降は通常価格)	



びあ



イープラス(e+)

スペシャルイベントも多数開催 申込み・詳細は上記 URL より

1. 写真家向け連続講座「ICPマスタークラス」を開催
 ニューヨークに所在するICP国際写真センターは、半世紀以上にわたり写真文化の保護と育成に貢献してきた世界有数の写真専門施設。このICPで教鞭をとる写真家のステファニ・ド・ルジェ氏を招き、3日間にわたりプロジェクト形式にて、写真制作のための高度な技術とすべてのプロセスを一連の流れを多角的に学びます。本企画は、ICPとのパートナーシップ提携が決定したことにより実現しました。修了者には、ICPから修了証明書が発行されます。
 4月20日|月-4月22日|水|の3日間 参加費:40,000円(税込) ＊通訳あり

2. 「KYOTOGRAPHIEポートフォリオレビュー」を本年度よりスタート
 国内外の様々なフィールドから招くレビュー者たちより個別にアドバイスを受け交流できるこの機会は、展示や出版など飛躍を目指す写真家たちにとって非常に価値あるものとなるでしょう。レビュー者には、[アルル写真フェスティバルディレクター] サム・ストゥルゼ氏、[フランス国立造形芸術センター (CNAp) キュレーター] パスカル・ボーズ氏、[ニューヨークICP] ステファニ・ド・ルジェ氏、[北京「三影堂攝影芸術中心」] 榮榮&映里氏、[写真批評家・キュレーター] 竹内万里子氏、[タカ・インイギャラリー] 石井孝之氏、[IMA Magazine] 太田睦子氏、[赤々舎代表] 姫野希美氏などを含む、業界の最前線で活躍する面々を迎えます。
 4月19日|日| 9:30-17:30 (午前・午後の2部制) ハイアットリージェンシー 京都にて参加費:18,000円(税込)/20分間のレビューを3回 ＊通訳あり

3. 約30におよぶ多彩なパブリックプログラム
 参加アーティストや豪華ゲストによる国際色豊かなトークショー、「便利堂」でのコロタイプ印刷ワークショップ、注目の出展作家のひとりロジャー・バレンによる新刊写真集のサイン会、子供たちがのびのびと写真表現を学べるキッズプログラムなど、幅広い客層にむけた様々な教育プログラムを企画しています。

4. 「ブルーノート・レコード」に関連する音楽イベントを多数開催
 「A Vision of Jazz: フランシス・ウルフとブルーノート・レコード」展会場内での特設ジャズラウンジのほか、デビュー 20周年を迎えたKYOTO JAZZ MASSIVEの沖野修也氏とのコラボレーションによるジャズイベントなどを開催いたします。

・KYOTOGRAPHIE kick off party ! 『IMAGINARY CLUB』
 4月18日|土| 21:30- CLUB METROにて
 ¥2,500 (KYOTOGRAPHIEパスポート持参の方は¥1,500) 1ドリンク付き
 オリバー・ジーバー (写真家)/ 沖野修也 (KYOTO JAZZ MASSIVE)/ 他DJ
 ・KYOTOGRAPHIE presents 「KYOTO JAZZ SEXTET tributes to BLUE NOTE RECORDS」 Special Jazz Dinner
 4月26日|日| 18:30- ハイアットリージェンシー 京都 ¥12,000 (ディナー付き)
 KYOTO JAZZ SEXTET / 沖野修也| スペシャルゲスト: 菊地成孔
 ・Do it JAZZ! meets KYOTOGRAPHIE: The Blue Night
 (Tribute to BLUE NOTE RECORDS)
 5月4日|月・祝前日| 22:00- CLUB METRO ¥3,000 (前売あり) 1ドリンク付き
 沖野修也 / 沖野好洋 (KJMI) / 田村正樹 / COSMIC BUTTERFLY / Do it JAZZ! DJ's

5. 子ども向けのプログラムも充実！
 プチバトージャパン提供の子ども向けワークブック、「KYOTOGRAPHIEキッズパスポート」を主要会場で無料配布します。また子どもワークショッププログラムにもぜひご参加下さい。詳細は上記URLにて。

協賛 _Sponsors

CHANEL GUCCI

http://www.kyotographie.jp

最新の情報は上記URLにてご確認ください。
 For detailed information about exhibitions and programs please go to our website.
 All information available in English and Japanese.



会場一覧

＊開館時間、休館日がそれぞれ違いますのでご注意ください。

1 虎屋 京都ギャラリー 4.18 ＊休館日 ＊各会場入場は閉館30分前まで。 5.10
 フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション
 Last Samurais, First Photographs ―サムライの残像
 〒602-0911京都市上京区一条通烏丸西入ル虎屋菓寮 京都一条店 横
 地下鉄烏丸線「今出川駅」6番出口から徒歩7分

2 有斐斎 弘道館 22
 ルー・カス・フォーリア | A Natural Order ―自然に向かう人々
 〒602-8006 京都市上京区上長者町通新町東入ル元土御門町524-1
 地下鉄烏丸線「今出川駅」6番出口から、または「丸太町駅」2番出口から徒歩8分

3 京都市役所前広場
 マルティン・グシンデ
 フェゴ諸島先住民の魂―セルクナム族、ヤマナ族、カウェスカー族
 〒604-8571 京都市中京区上本能寺前町488
 地下鉄東西線「京都市役所前駅」15番出口から徒歩1分、
 または京阪「三条駅」12番出口から徒歩7分

4a コム デ ギャルソン京都店
 ロジャー・バレン | Shadowland 1969–2014 ロジャー・バレンの世界
 〒604-0941 京都市中京区御室町通御池上る亀屋町378
 地下鉄東西線「京都市役所前駅」3番出口から徒歩3分

4b 堀川御池ギャラリー 20 27
 ロジャー・バレン | Shadowland 1969–2014 ロジャー・バレンの世界
 〒604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町238-1
 地下鉄東西線「二条駅前駅」2番出口から徒歩3分

5 嶋臺ギャラリー 23 30 7
 A Vision of Jazz: フランシス・ウルフとブルーノート・レコード
 〒604-0844 京都市中京区御池東洞院西北角
 地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池駅」1番出口から徒歩1分

6 ギャラリー素形 27
 ノ・スンテク | reallyGood, murder
 〒604-0021 京都市中京区室町通二条下ル蛸薬師町271-1
 地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池駅」2番出口から徒歩6分

7 誉田屋源兵衛 黒蔵 22
 マグクリバー | 「Alaska」 presented by CHANEL NEXUS HALL
 〒604-8165 京都市中京区室町通三条下ル西側誉田屋奥
 地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池駅」6番出口から徒歩4分

8 無名舎 21 28
 山谷佑介 | Tsugi no yoru e
 〒604-8212 京都市中京区新町通六角下ル六角町363
 地下鉄烏丸線「四条駅」22・24番出口から徒歩8分

9 花洛庵 野口家住宅 20 27 28
 ヨシダ キミコ | All that's not me ―私じゃないわたし Supported by GUCCI
 〒604-8233 京都市中京区油小路通四条上ル藤本町
 地下鉄烏丸線「四条駅」24番出口から徒歩8分、阪急「大宮駅」東出口より徒歩6分

10 両足院 建仁寺内 19 20 27 7
 榮榮&映里 (ロンロン&インリ) | 妻有物語
 〒605-081 京都市 東山区大和大路通四条下る4丁目小松町591
 京阪「祇園四条駅」3番出口から徒歩7分、または阪急「河原町駅」1番出口より徒歩10分

11 ASPHODEL 21 28
 オリバー・ジーバー | イマジンアリー・クラブ
 〒605-0085 京都市東山区八坂新地末吉町99-10
 京阪「祇園四条駅」7番出口から徒歩3分、阪急「河原町駅」1番出口から徒歩5分

12 祇園新橋伝統的建造物 22 27 7
 (パスザバトン京都祇園店／2015夏OPEN予定)
 フォス・コ・マライニ | 海女の島:ルガノ文化博物館コレクション
 〒605-0085 京都市東山区末吉町77-6、103-2
 京阪「祇園四条駅」7番出口から徒歩5分

13 SferaExhibition 22 7
 ルイ・ジャム | チェルノブイリ
 〒605-0086 京都市東山区縄手通り新橋上ル西側弁財天町17 スフェラ・ビル
 京阪「三条駅」5番出口または「祇園四条駅」9番出口から徒歩7分

14 村上重ビル 地下 22
 ボードワン・ムアンダ | コンゴの紳士たち、「サブール」の美学
 〒600-8019 京都市下京区西木屋町四条下ル船頭町194
 阪急「河原町駅」1・2番出口から徒歩2分、京阪「祇園四条駅」3番出口から徒歩3分

KYOTO
 GRAPHIE

international
 photography festival

2015.4.18 Sat.—5.10 Sun.

www.kyotographie.jp

京
 都
 国
 際
 写
 真
 祭

表紙: ヨシダ キミコ [絵画「バオロ・ウッチェロ画サン・ロマーノの戦いより―ミケレット・ダ・コディニョラの援軍」]、セルフポートレート, 2010 © Kimiko Yoshida

KYOTOGRAPHIEについて

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」は、

世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、日本でも数少ない国際的な写真祭です。

日本および海外の重要作家や貴重な写真コレクションを、趣のある歴史的建造物やモダンな近現代建築の空間に展開し、伝統工芸職人や最先端テクノロジーとのコラボレーションを実現するなど、京都ならではの特徴ある写真祭を目指しています。

第3回目となる今年は、会場を15カ所に設置、計9カ国14組の作家が参加します。期間中は、展覧会場のほかに、市内各所の画廊、カフェ、教育施設など約50の会場で、国内外の若手作家展を中心としたサテライトイベントKG+（ケージープラス）や、子どもから大人までを対象とした様々なパブリックプログラムも多数予定されています。

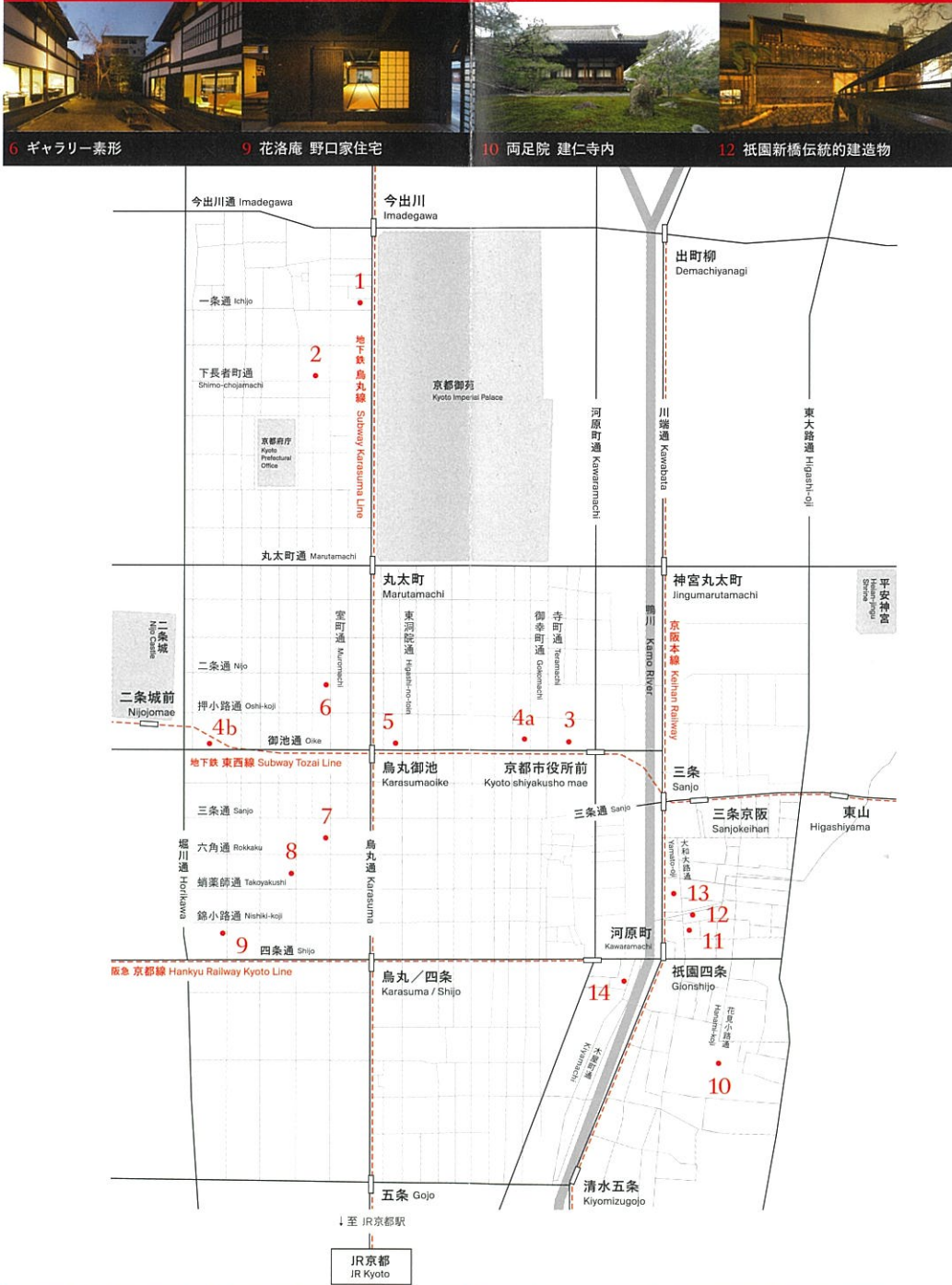
私たちの社会や日常に不可欠なメディアとなっている写真ですが、芸術表現としてまだまだ大きな可能性を秘めています。この写真祭では、芸術写真における「見るもの／見られるもの」「写す者／写される者」といった関係のあり方を、様々な形で提案していきます。

今年のテーマ「TRIBE —あなたはどこにいるのか？」

TRIBEを直訳すると「部族」

となりますが、ここでは血や地域といった先天的なつながりだけではなく、個々人の意志で結ばれた様々な視点からなる人間の集まりを指しています。そして様々な視点とは、世界の先住民文化やその歴史はもちろん、現代ポップカルチャーまでもが含まれる、いわば表現しえる思想や文化全般に関わるものです。

新しいTRIBEという視点の発見が、誰もが導く素晴らしいということを再認識させる一助となり、また情報過多のこの現代において自分の立ち位置を見つめ直すきっかけとなるよう、KYOTOGRAPHIE独自の視点からセレクトして開催される14の写真展です。



お問い合わせ | Contact: KYOTOGRAPHIE office (JP/EN, 10:00-18:00) 075-708-7108

8 無名舎 | Mumeisha

山谷佑介 | Tsugi no yoru e

Yusuke Yamatani | Tsugi no yoru e

写真家を志す前はバンド活動に明け暮れていたという山谷佑介（1985、新潟県生まれ）の写真集『Tsugino yoru e』（2013年に自費出版）には、大阪でともに過ごしたバンクスやスケーターたちの日常がスナップされている。コントラストの強い荒れた画像に写る、破天荒な若者たち……インデペンデントキュレーター、アリスン・ブラッドリーが「啓示的」と絶賛する本作が、町屋という特殊な空間に展示される。被写体となった若者たちの気配が感じられるようにと、インスタレーションの要素を取り入れ、随所に工夫がなされる予定だ。

山谷佑介 | Tsugi no yoru e |, 2010 ©Yusuke Yamatani Courtesy of Yuka Tsurumo Gallery

9 花洛庵 野口家住宅 | Noguchi Residence, Karaku-an

ヨシダ キミコ | All that's not me —私じゃないわたし

Kimiko Yoshida | All that's not me

Supported by GUCCI

ヨシダキミコの作品は全てセルフポートレートのスタイルをとるが、作家が「消滅の儀式」と言う通り、自身が絵画的な要素の一部となって、同じサイズ、構図、主題、ライティングで撮影し、デジタル加工は一切行わないという。そのような方法でキミコが自らに問い続けてきたこと、それは「私は何者か?」よりもむしろ「どれだけの私がいるのか?」ということ。本展では、会場となる呉服商野口家の京友禅を表具師・宇佐直直八氏が掛け軸に仕立てた特別作品などが、自らも伝統技術とクリエイティブの融合を体現するGUCCIの支援によって展示される。野口家住宅こと花洛庵は、茶人・作庭家でもあった小堀遠州が江戸前期に晩年をすごした伏見奉行屋敷を移築したもの（通常は非公開）。今回はその一部と庭園を背景にした展示もみどころとなる。

【ルオ族とトゥルカナ族の装飾品をまとったケニアの若い花婿】セルフポートレート、2005年 Courtesy of the Israel Museum, Jerusalem.

10 両足院 建仁寺内 | Ryosokuin (Kenninji temple)

榮榮&映里（ロンロン&インリ）| 妻有物語

RongRong & inri | Tsumari Story

中国写真芸術の先駆者である榮榮（1968、中国福建省生まれ）と、日本人女性写真家の映里（1973、神奈川県生まれ）は2000年に「榮榮&映里」として北京で共同制作を開始し、中国における写真表現のけん引役を担ってきた。「妻有物語」は、越後妻有アートトリエンナーレ（2012年）の招待作家として制作した作品。約2年間、日本有数の豪雪地帯である新潟県十日町に暮らしながら、変化していく夫婦や家族の有り様、「生命の流れ」に感応していく過程が写真に表されている。会場となる両足院は通常一般公開していない禅院で、その書院や茶室、新緑を迎える庭園の美しさもあわせてご覧いただくことができる希有な機会となる。

榮榮&映里 | 妻有物語 |, 2014 ©RongRong & inri

11 ASPHODEL

オリバー・ジーバー | イマジナリー・クラブ

Oliver Sieber | Imaginary Club

写真家としてだけでなくギャラリーや出版レーベルの運営など、様々な写真文化の発信に取り組むオリバー・ジーバー（1966、デュッセルドルフ生まれ）は、若者のアイデンティティと、その形成に深く関わるユースカルチャーに関心を寄せる。今回は、規則的なルールのもとで多数のポートレートを撮影する制作スタイルを確立した処女作『SkinsModsTeds』（1999）、日本、ドイツ、アメリカなどのクラブを訪れて撮影した『Imaginary Club』（2013）、日本のサブカルを題材にした『J_Sub』（2006）の3シリーズを併せて展示。またクラブMETROにてスペシャルイベント「KYOTOGRAPHIE kick off party "Imaginary Club"」も予定している。

オリバー・ジーバー [ジェシー]、ドルトムント、2006 ©Oliver Sieber

12 祇園新橋伝統的建造物（バズバトン京都祇園店／2015夏OPEN予定）

Traditional building in Gion Shinbashi

(PASS THE BATON KYOTO GION/Opening in summer 2015)

フォスコ・マライニ | 海女の島:ルガノ文化博物館コレクション

Fosco Maraini | The Enchantment of the Women of the Sea—by "Museo delle Culture" of Lugano.

フォスコ・マライニ（1912-2004）は人類学者、東洋学者、登山家、写真家として活躍したフィレンツェ生まれのイタリア人。1939年に初来日してアイヌ研究に努め、1942年から京都大学で教壇に立った。生涯にわたって日本に関する文章や写真を発表したが、「海女の島」は彼が1954年に能登半島の北方に位置する船倉島と御厨島で撮影したもの。素潜り漁を行う人たちの姿は、無垢で大らかな美しさに満ち、海に囲まれた日本独特の自然主義を象徴しているかのようだ。京都市とフィレンツェ市の姉妹都市提携50周年を記念して、本展の開催が実現した。

フォスコ・マライニ「海女の島」より、日本、1954 ©2015 MCL - Vieusseux - Alinari

13 SferaExhibition

ルイ・ジャム | チェルノブイリ

Louis Jammes | Tchernobyl

主に肖像作品を制作するルイ・ジャム（1958、フランス・カルカソンヌ生まれ）は、二重露光や現像段階でのエフェクトを使い、様々なレイヤーが重なっているかのように仕上げる独自の手法を確立。ウォーホルら有名作家を写した作品で知られるが、一方でベルリンの壁やイラク、サラエボ等々、国際問題や紛争の地を訪れ、シリアなテーマに取り組んできた。悲劇の渦中にある人々の肖像を作品化することで、彼らの中にある尊厳や美を引き出すのだ。この日本初個展では、原子力発電所事故の余波が続くチェルノブイリで撮影された作品を紹介。

ルイ・ジャム「ブリヤチの子ども」、1991 ©Louis Jammes

14 村上重ビル 地下 | Murakamijyu Building BF

ボードワン・ムアンダ | コンゴの紳士たち、「サプール」の美学

Baudouin Mouanda | The Sapeurs of Baongo

世界的に注目されるコンゴのサプール（Sapeurs）は、サップ（SAPE）と呼ばれる、60年代パリの紳士を手本にしたスタイルを楽しむ伊達男たちの総称。ファッションとともに重要視されるのは、道徳や非暴力、言論の自由等を尊重する精神で、それらが備わってはじめてサプールと認められる。ボードワン・ムアンダ（1981、コンゴ共和国ブラザヴィル生まれ）は、サプールの渦中にある人々の肖像を作品化する事で、彼らの中にある尊厳や美を引き出すのだ。この日本初個展ではプロジェクションとアフリカ音楽による展示が予定されている。

ボードワン・ムアンダ, 2008 ©Baudouin Mouanda



8



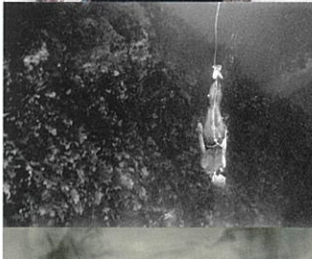
9



10



11



12



13



14